

36

人びとのあつまり

■家の守り神

市域の古い家には、敷地内に屋敷神が祀られていることが多い。屋敷神は、家の守り神として一軒で祀るものと、隣近所で祀るもの、そして地域で祀る場合がある。

福生市域の屋敷神の多くは、稲荷を祀っている。稲荷はもともと稲、農業の神様で、京都の伏見稲荷大社を中心に発達した。一八世紀後半になると、稲荷信仰は江戸でさかんになり、流行神として近隣各地に広がっていった。市内の稲荷社では一八一六年（文化十三）勧請かんせいのものがもとも古く、多くは幕末に勧請されたものである。またこのころ、稲荷は庭場の神としても祀られるようになった。幕末の大きな変動のなかで、庭場の人たちは同じ神を祀る仲間として、また共同で膳椀ぜんわん倉をもち、助け合うことによって互いのつながりを強めていった。

このほかに、数は少ないが、稲荷より古いと伝えられるれいじん霊神ないし御霊様みたまさまとよばれる屋敷神がある。これは家を守る神とされ、なかには古い位牌を御神体とする場合もある。また、屋敷神の御神体を丸い自然石としている家がたくさんあり、他地域の例も合わせて考えると、昔は丸い石を先祖の霊が寄りつくものとして考えていたようである。さらには、稲荷の御神体を丸い石としている場合が多いこ



御霊(みたま)様



稲荷(初牛)

No	呼称(祭神)	福生地区	熊川地区	合計	No	呼称(祭神)	福生地区	熊川地区	合計
1	稲荷	122	71	193	22	藍神	1		1
2	御霊(ミタマ)	5	3	8	23	板鏡	1		1
3	山ノ神	3	3	6	24	石棒	1		1
4	弁天	14	11	25	25	虚空蔵	1		1
5	八幡	3	6	9	26	産土(ウブスナ)	1		1
6	馬頭観世音	7	3	10	27	諏訪	1		1
7	金神(コンジン)	4	2	6	28	春日大明神	1		1
8	水神	6	3	9	29	荒神	2		2
9	熊野	1		1	30	獣魂碑	1		1
10	不動	4		4	31	竜神	1		1
11	オシャモジ	1		1	32	太子堂	1		1
12	御嶽(ミタケ)	2	4	6	33	十一面観世音菩薩		1	1
13	権現(ゴンゲン)	1		1	34	金毘羅(コンピラ)		1	1
14	御魂霊神(ミタマレージン)	2	2	4	35	身延(ミノブ)		1	1
15	金山(カナヤマ)	3	1	4	36	神明		1	1
16	霊神(レージン)	5	2	7	37	諏訪		1	1
17	地ノ神	1		1	38	天王		1	1
18	ジジョウ神	1		1	39	抱瘡(ホウソウ)		1	1
19	地藏	2		2	40	大黒		1	1
20	水天宮	1		1	41	蚕影(コカゲ)		1	1
21	観音	2		2	42	万蔵		1	1

屋敷神一覧表(平成2年)

ものや、親睦を目的とする集まりを講とよぶ場合もある。福生市域には、さまざまな講がある。

明治初期から記録が残っているのは、福生の長沢・永田・加美地区でつづいている塩釜講である。

とから、もともと屋敷内に祀られていた祖霊神である霊神・御霊様が、稲荷信仰の流行によって、置き換えられていったのではないかと考えられる。

■講の集まり

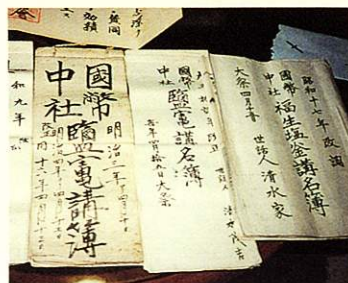
講とは、信仰を同じくする者が集まってつくる集団をいう。講には、寺社が信徒をふやすためにつくる檀家や氏子の集まりをさす場合と、地域を中心とした信仰の集団をさす場合がある。また、金銭の貸し借りを行う互助的な働きをする表(一七〇頁)のようにさま



職人の太子講でまつる聖徳太子像



御詠歌の講(千手院 平成2年) 御詠歌とは仏教讃歌の一つで、鈴にあわせて唱えるもの。近代以降広く普及するようになった。



塩釜講の名簿(長沢)

これは、東大和市の高木神社境内にある塩釜神社の講で、安産と火伏せの神様なので、女性を中心となっている。四月十五日の祭礼には、毎年必ず代参だいたん(講のなかから順番に人を選んで代表としてお参りする)に行く。代参に行く人は、各家から集めた講金を神社に渡し、人数分の御札と、塩、洗米、供物、御神酒などをいただいでくる。代参者が帰ると、その日はお日待ちを行う。

永田地区では、昭和四十年まで、お日待ちは講員の家をもちまわりで宿やどとしていた。自分の家が宿に決まると、その年は芋やほうれん草をいつもより多く畑につくって、お日待ちのために準備した。代参の当日、代参者が神社からの御神酒を届けると、宿ではそばと酒を出してもてなした。夕方になって講中の人が集まると、塩釜様の掛け軸を掛け、灯明をあげて拝み、五目飯、煮しめ、てんぷらなどでお日待ちをして楽しくすごした。高木の塩釜様は遠く、昔は女性は外出しにくい時代だったので、代参は男性が行くものであった。交通手段は、はじめのころは徒歩で、次には自転車、そして電車に変わり、自動車を使う時代になってはじめて、女性も代参に行けるようになった。

	名 称	行っている地域と人数	祭日など	内 容 他
1	天神講	加美(福生) 38軒	2月21日	天の宮の天神様を祀る、男性中心の講。明治10年の記録あり。
2	太子講	福生市域 16名	1月22日 9月22日	太子堂の聖徳太子を祀る職人達の講。明治初期から続いている。
3	金毘羅講	上屋敷(福生) 36名	4月10日 10月10日	新堀橋付近の金毘羅大権現を祀る男性中心の講。昭和36年発足。
4	弁天講	清芳院(福生) 20名	4月8日	檀家有志の男性だけの講。明治末から続く。
5	子の権現福生講	永田・長沢・本町・熊川 270名(昭和61年現在)	4月末に参詣	吾野の天竜寺、通称「子の権現」を祀る講。足腰に御利益があるとされる。
6	参宝講(観音講)	上内出(福生)の観音堂 20名位	毎月17日	本来は観音様を祀る女性中心の観音講で、昭和52年の観音堂の建て直しを機に参宝講に名を変えた。
7	福生不動講	本町 600名位	1月1日 2月3日 2月11日 5月28日 9月28日 12月28日	大正11年建立の福生不動尊を祀る講。
8	御嶽講	・中福生 39名 ・熊牛(熊川)・福牛(福生) 43名	12月8日頃	青梅の御嶽神社を信仰する講。毎年12月に神社から御師が来て祈禱し、お礼を祀る。春に御嶽山に代参する。
9	塩釜講	長沢・永田・加美(福生) 112軒	4月15日	東大和市の高木神社境内の塩釜神社を祀る女性中心の講。4月15日に代参し、お礼を頂いてくる。
10	御詠歌の講	・千手院(熊川) 40名位 ・福生院(熊川) 50名位	毎週水曜日 週1回	檀家の女性を中心に構成、御詠歌を練習。先代住職が建長寺(鎌倉)で教わり普及させる。檀家の女性を中心に、御詠歌を練習。
11	地藏講	・千手院(熊川) 70名位 ・加美(福生) ・長徳寺(福生)	9月23日 4月15日頃 4月14日 10月14日	子育て・安産に御利益がある牛浜地藏尊を祀る講。 加美平西公園の桜林地蔵を祀る。天保6年建立。 明治28年に亡くなった「おそのさん」を祀るおその地藏。別名、福德延命地藏。子供の病気に御利益があるとされる。
12	妙見講	原ヶ谷戸(福生) 10軒	4月3日 10月15日	あきる野市折立の妙見様を祀る講。新年、盆、暮れにもお堂へ行く。
13	蚕影講	永昌院(福生)	4月17日	養蚕が盛んであった頃は各地にあった女性の講。かつての養蚕農家が集まり続けている。
14	寒川神社福生講	本町中心に奥多摩・あきる野・青梅・羽村の人も参加 120人位	2月第3日 曜日に参拝	神奈川県寒川町の寒川神社を信仰する講。方位除けを祈願し神社に参拝する。多摩各地からの参加者もいる。昭和33年から続く。
15	稲荷講	南 47名 内出 44名	2月11日	加入者は膳倉舎の道具が利用できる。
16	薬師様の祭	薬師堂(長沢通り) 12名	9月19日	別名「ジャンガモンガ」の薬師。特に眼病に御利益があるとされる。

講一覧表(平成3年)